

野菜高温対策をめぐる情勢

令和8年7月
農林水産省

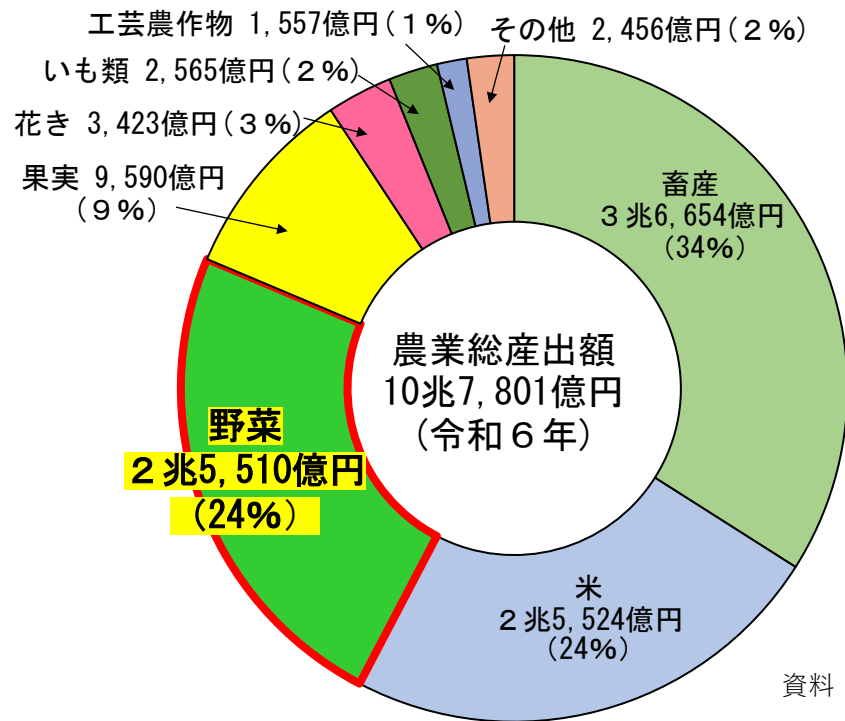
目次

1 我が国の農産物における野菜の位置づけ	1
2 野菜を取り巻く状況	2
3 気象の状況	3
4 近年の指定野菜の価格動向	4
5 夏季の高温等による価格面への影響	5
6 夏季の高温等による生産面への影響	8
7 技術対策	9
・適応策及び高温耐性品種	
・産地生産基盤パワーアップ事業(令和6年度補正予算)	
・技術開発予算関係	

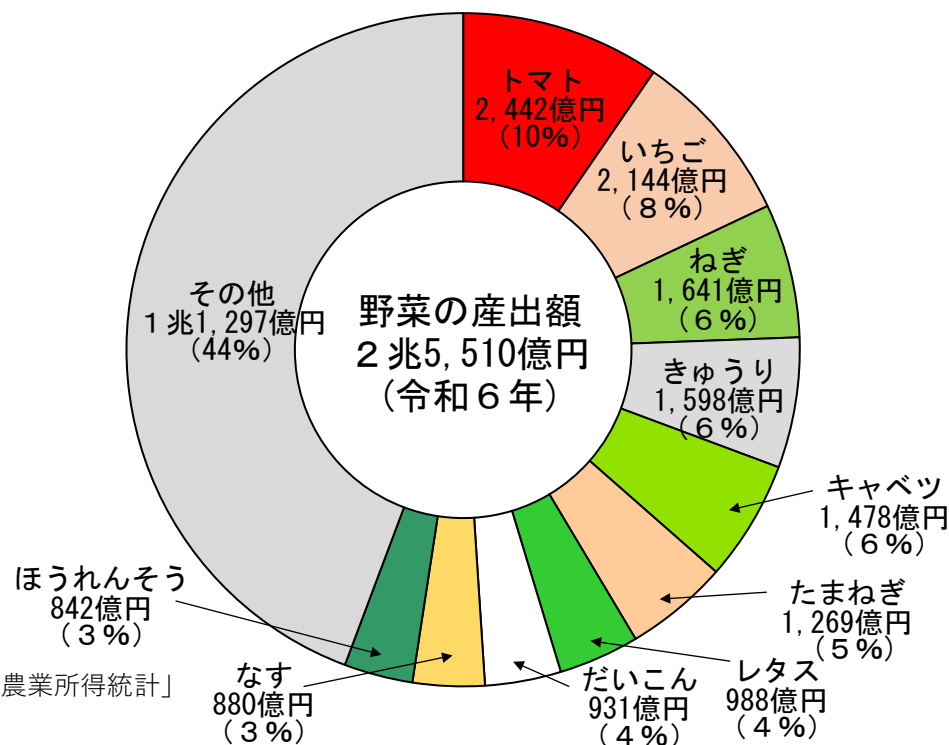
1 我が国農業生産における野菜の位置づけ

- 野菜の産出額（令和6年：2兆5,510億円）は、我が国の農業総産出額の約1／4を占めている。
- 品目別には、トマト、いちごの2品目で野菜産出額の約2割を占めている。
- 野菜はカロリーベースでの食料自給率への寄与率は小さいものの、国民の健康維持・増進や農業振興の上で重要。

【農業総産出額に占める野菜の割合（令和6年）】

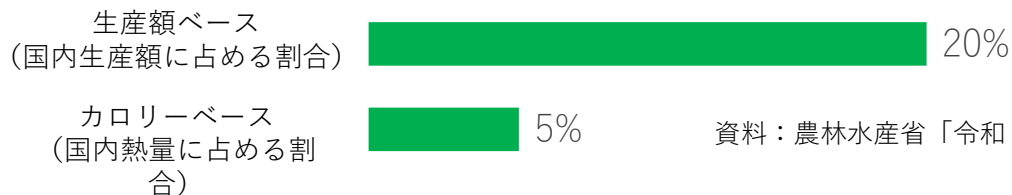


【野菜産出額に占める品目別の割合（令和6年）】



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

【食料自給率への野菜の寄与率（令和6年度）】

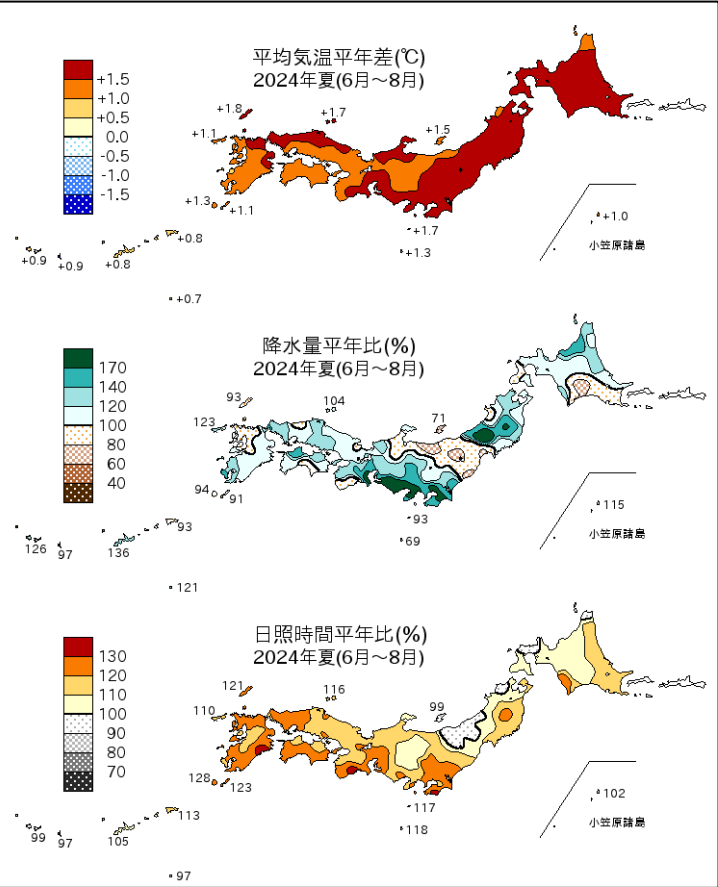


資料：農林水産省「令和6年度 食料需給表(概算値)」

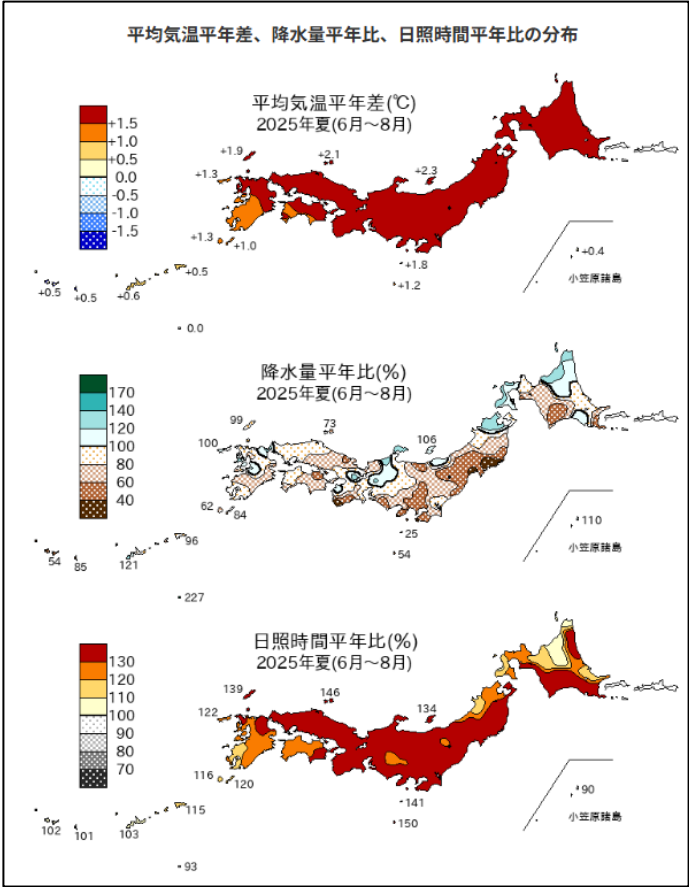
3 気象の状況

- 令和6年 夏（6～8月）の特徴
気温は、全国的にかなり高かった。降水量は、東日本太平洋側でかなり多かった。日照時間は、東・西日本太平洋側と西日本日本海側でかなり多かった。
- 令和7年 夏（6～8月）の特徴
気温は、北・東・西日本でかなり高く、日本の夏の平均気温は統計を開始した1898年以降の夏として1位の高温となった。降水量は、北・東日本太平洋側でかなり少なかった。日照時間は、北・東・西日本日本海側と北・東・西日本太平洋側でかなり多かった。

令和6年 夏（6～8月）の天候



令和7年 夏（6～8月）の天候



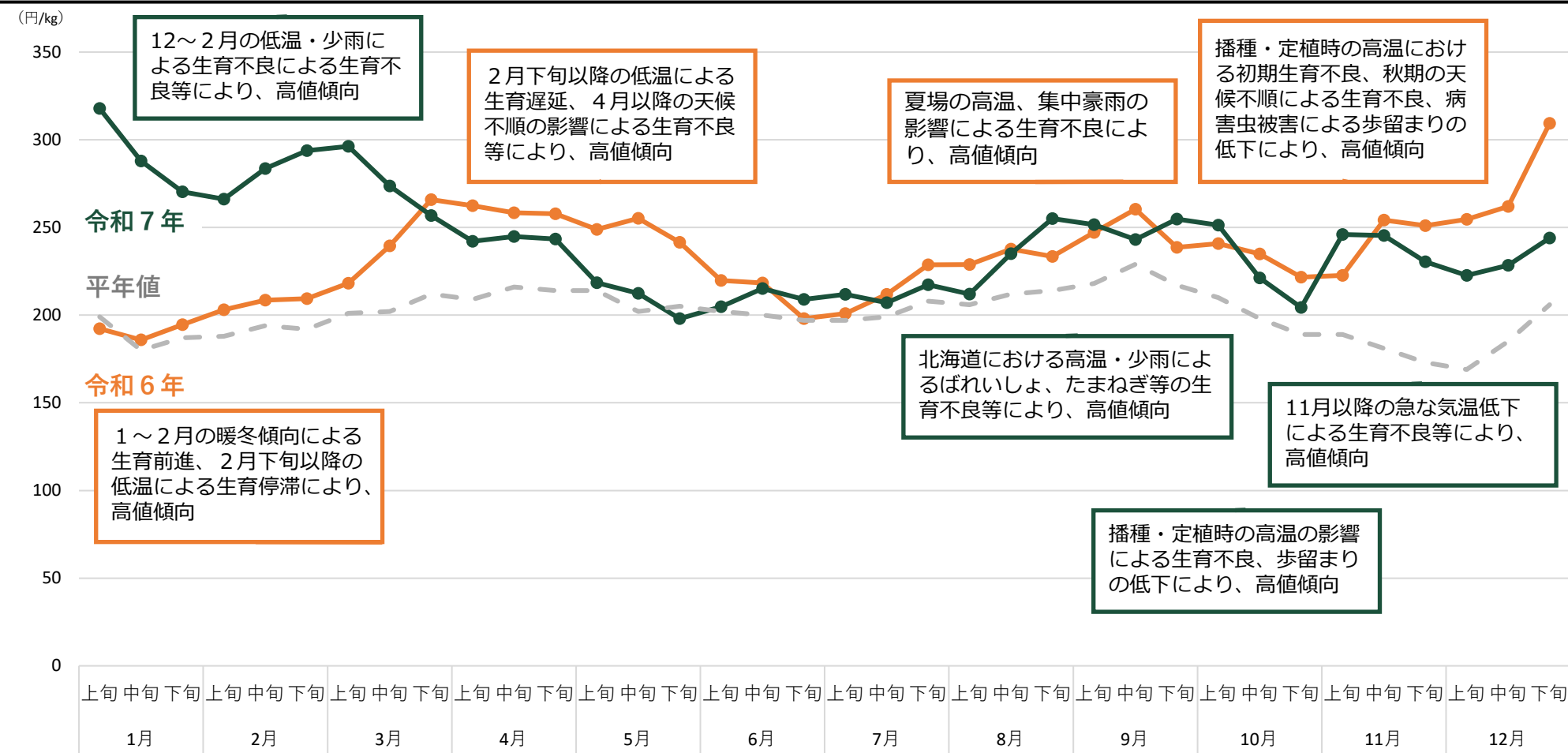
各産地における猛暑日及び真夏日日数と最高気温（令和7年）

	猛暑日 日数	真夏日 日数	最高気温
北海道 （北見市）	8 （+2.4）	37 （+25.6）	39.0℃ 〈7/24〉
福島 （郡山市）	7 （+5.8）	60 （+31.1）	37.3℃ 〈7/26〉
茨城 （鉾田市）	25 （+20.0）	66 （+33.1）	37.6℃ 〈8/23〉
愛知 （豊橋市）	6 （+5.2）	66 （+23.8）	36.6℃ 〈8/31〉
宮崎 （西都市）	10 （+3.4）	72 （+18.6）	37.3℃ 〈8/6〉

※猛暑日は日最高気温が35℃以上
※真夏日は日最高気温が30℃以上
※（ ）は平年差
※〈〉は日付

4 近年の指定野菜の価格動向（東京都中央卸売市場）

- 令和6年における指定野菜の価格動向は、1～2月の暖冬により生育が前進したことに加え、2月下旬以降の低温、4月以降の天候不順により、出荷量が減少したことで端境となり、3～5月にかけて高値傾向となった。また、**夏季の高温等により夏季出荷分の生育不良及び秋冬作の播種・定植時の初期生育不良**が発生したこと、12月から令和7年2月の少雨により生育不良が発生したことから、長期にわたって出荷量が減少し、**7月中旬から4月にかけて価格は平年を大きく上回って推移**した。
- 令和7年は、好天の影響により5～8月まで落ち着いた価格で推移した。夏季の高温等により一部品目において生育不良、歩留まりの低下がみられたことに加え、11月以降の急な気温低下の影響により生育不良等が発生したことから、8月中旬から12月にかけて高値傾向で推移した。

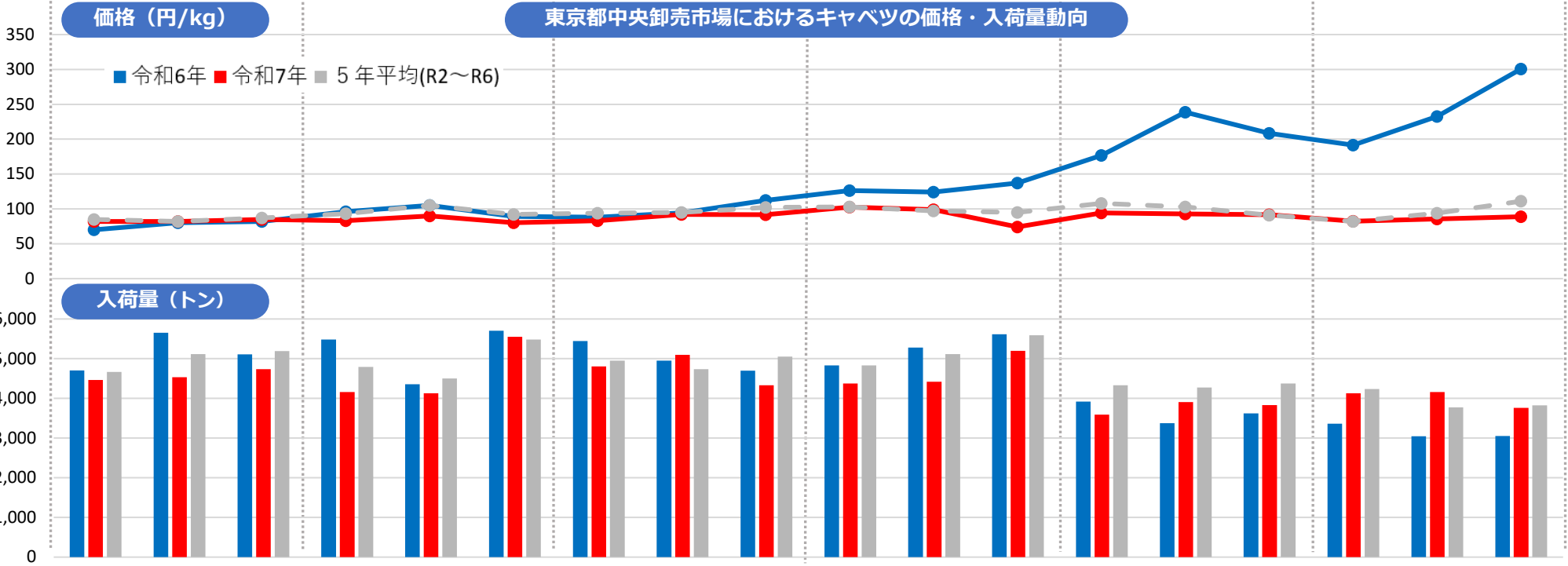
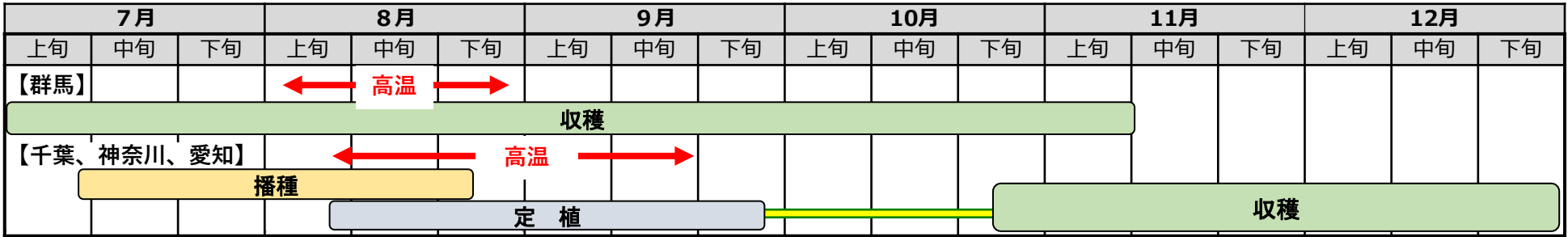


資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

5 夏季の高温等による価格面への影響（キャベツ）

- 令和6年は7～9月にかけて、群馬県産など高冷産地からの出荷が順調となり価格も概ね平年並みで推移した。10月は群馬県産が8月の高温と降雨による歩留まりの低下に加え、後段産地の生育不良により、価格が平年よりも高く推移した。11月以降は、主産地の切り替わり時期となるが、後段産地が夏季の高温による初期生育不良、定植遅れ、秋季の天候不順による歩留まりの低下に加え、12月の低温・少雨により小玉傾向となったことで出荷量が減少し、価格が高騰した。
- 令和7年は概ね順調な出荷となり、価格も概ね平年並みで推移した。

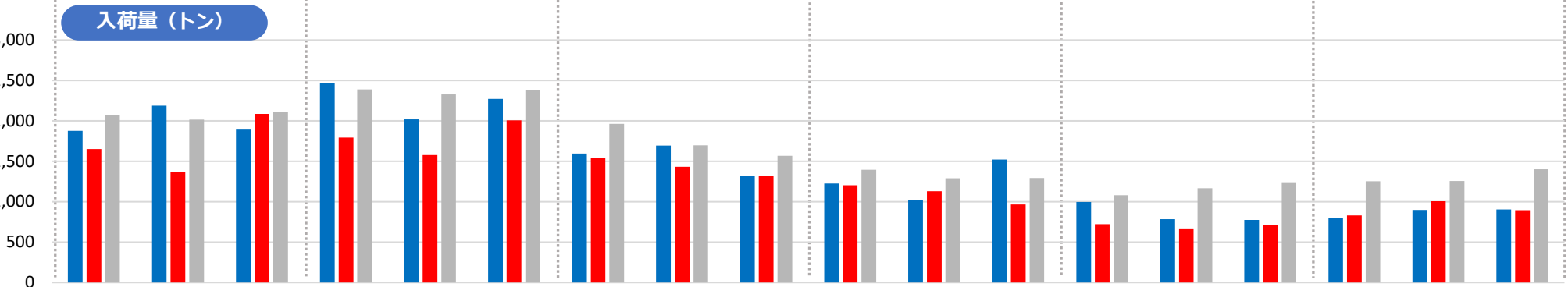
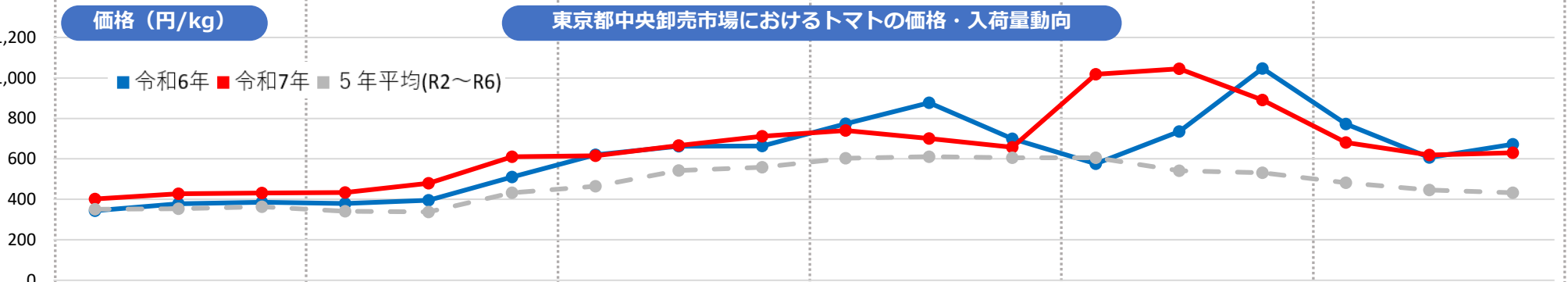
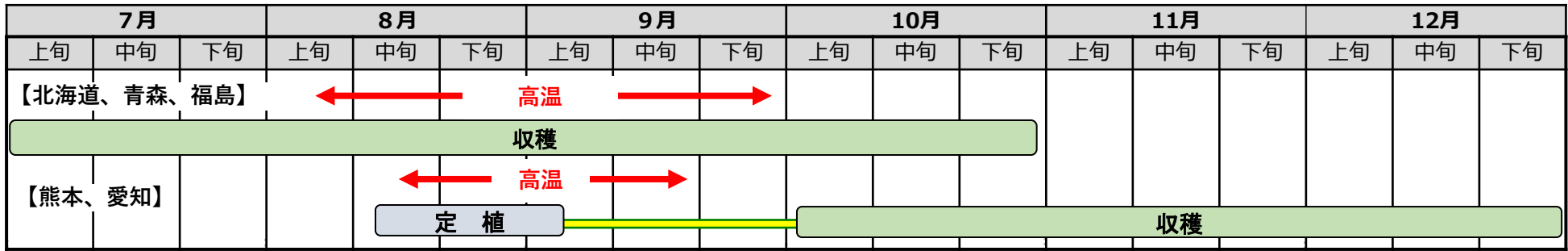
キャベツの生育ステージ



5 夏季の高温等による価格面への影響（トマト）

- 令和6年、7年ともに8～10月にかけて、北海道産や東北産において**高温の影響による着果不良**のため出荷量は減少し、高値傾向で推移した。10月以降は後段産地となるが、令和6年は**定植時期・生育初期の高温による着果不良**、秋季の天候不順・12月の低温により小玉傾向となり、令和7年は、主産地の熊本県における8月の豪雨の影響による定植遅れ、生育不良に加え、夏秋季の高温の影響による着果不良、歩留まりの低下がみられたことにより出荷量が減少し、高値傾向で推移した。

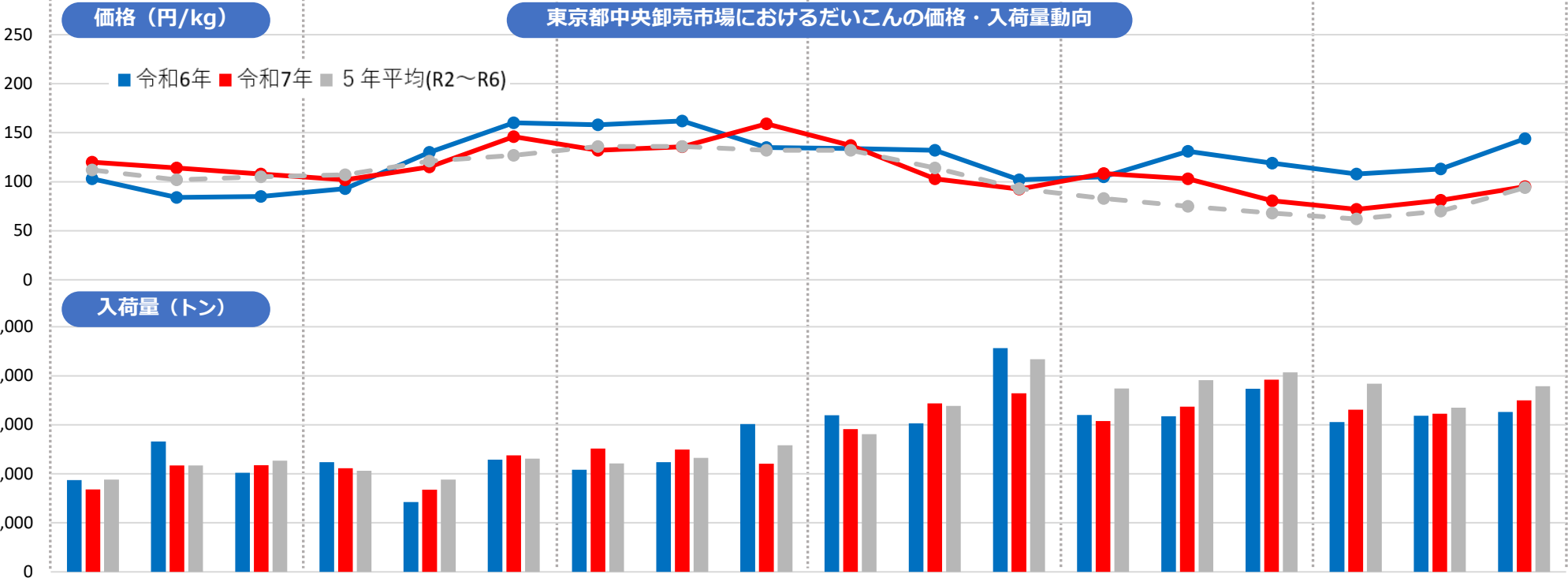
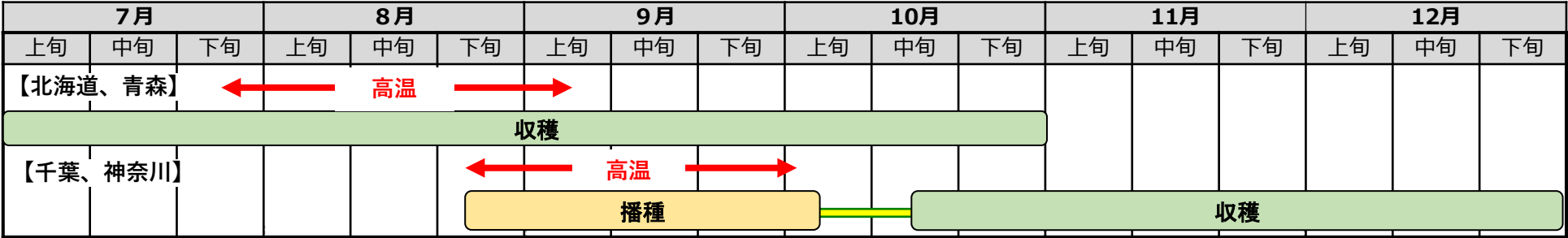
トマトの生育ステージ 



5 夏季の高温等による価格面への影響（だいこん）

- 令和6年は8～9月にかけて、**高温の影響により歩留まりが低下**したため出荷量が減少し、8月下旬～9月中旬の価格は平年よりも高く推移した。10月には平年並みに回復11月以降は後段産地となるが、**播種時期の高温による生理障害**に加え、12月の低温・少雨により細物傾向となったことで出荷量が減少し、価格は平年よりも高く推移した。
- 令和7年は概ね順調な出荷となり、価格も概ね平年並みで推移した。

だいこんの生育ステージ 

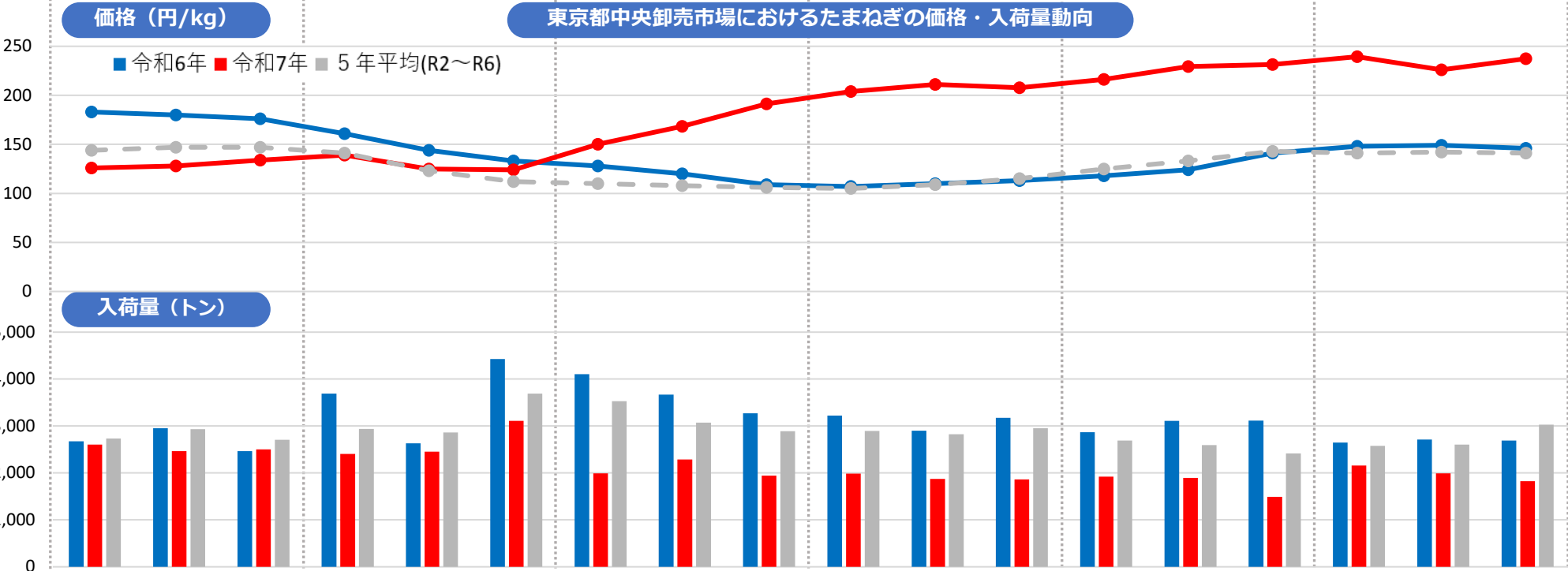
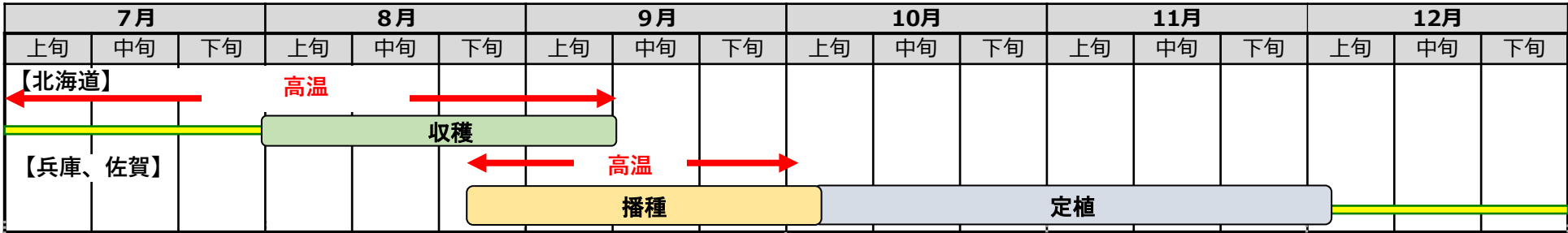


資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

5 夏季の高温等による価格面への影響（たまねぎ）

- 令和6年は冬季の低温・少雨、春季の多雨の影響により、生育不良、歩留まり低下が見られたことから、7月までの出荷量が減少し、価格は平年よりも高く推移8月以降は後段産地の北海道産の出荷が順調で、価格も平年並みで推移した。
- 令和7年は5～7月にかけての高温・少雨の影響により小玉傾向となったことから、8月以降の北海道産の出荷量が少なくなり、9月以降は平年を上回る価格で推移した。

たまねぎの生育ステージ 



資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

6 夏季の高温等による生産面への影響

● 葉茎菜類：生育初期から収穫期まで広範囲に影響

ほうれんそう：高温、高温・多雨により「生育不良」、「発芽不良」の発生

キャベツ：高温・少雨により「虫害」、「生理障害」の発生

ねぎ：高温、高温・多雨により「生育不良」、「病害」の発生、高温・少雨により「虫害」の発生

レタス：高温、高温・少雨により「生理障害」、「生育不良」の発生、高温・多雨により「病害」の発生

タマネギ：高温・少雨により小玉化の発生が増加

● 果菜類：生育初期からの生育不良に加え果実に影響

トマト：高温により「着果・着色不良」、「裂果などの不良果」、「日焼け果」の発生

なす：高温・強日射により「不良果」の発生、高温・少雨により「虫害」の発生

きゅうり、ピーマン：高温により「着花・着果不良」の発生

いちご：育苗期から花芽分化期の高温により「花芽分化の遅れ」の発生

● 土もの・根菜類：生育初期からの生育不良に加え収穫部位に影響

だいこん：高温・少雨により「生理障害」、「病害」の発生

資料：農林水産省「地球温暖化影響調査レポート」及び産地からの聞き取り

高温等による生理障害、病虫害の症例

葉茎菜類

○キャベツ：チップバーン症状



写真提供：山口県病害虫防除所

○タマネギ：小玉化の発生



ベジ探
産地作柄情報

果菜類

○トマト：着色不良、裂果などの不良果



○トマト：コナジラミ類の発生
(タバココナジラミによる黄化葉巻病の媒介)



だいこん

○だいこん：赤芯症(生理障害)の発生



赤芯症

○だいこん：黒芯症(生理障害)の発生



黒芯症

7 技術対策（適応策及び高温耐性品種）

- 夏季の高温への影響の対策として、産地において遮光資材の利用や、生育予測システムや細霧冷房の利用、適切な病害虫防除等の適応策が実施。
- 各種苗メーカー等において高温耐性品種が育成され、産地での転換や導入が進められている。

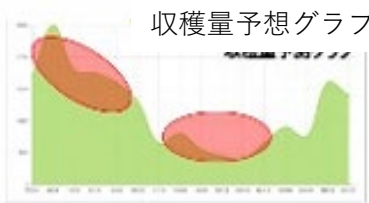
産地において取り組まれている適応策

遮光資材の導入：日焼け果や着花・着果不良の防止等



遮光ネットの利用

生育予測システム、細霧冷房の導入：生理障害の軽減



生育予測システム



細霧冷房装置

適時・適切な防除：病害虫による被害の防止



発生予察



ドローンでの適期防除等

高温耐性品種の例

品目	品種例	特徴
キャベツ	藍天	● 耐暑性に強く、チップバーン（カルシウム欠乏症）が起きにくい
ブロッコリー	SK9-099	● 耐暑性に優れ、活着不良や不整形花蕾が発生しにくい
ピーマン	グランバギー（台木）	● 高温時の樹勢低下による収量減少の抑制
レタス	ヒートガイ	● 高温期に結球と肥大が安定し、大玉で秀品率が高い
トマト	麗月	● 高温による裂果の発生が少ない
だいこん	夏秋自慢	● 高温期で問題となる空洞症、赤芯症、黒芯症等の発生が少ない
はくさい	黄づつみ78	● 高温期に問題となる根こぶ病に耐病性をもつ
メロン	アールスアポロン	● 高温により生息域が拡大しているタバコナジラミが媒介する退緑黄化病抵抗性を持つ

7 技術対策（令和7年度補正予算 産地生産基盤パワーアップ事業）

- 高温対策栽培技術を計画的に取り組む産地に対し、生産資材の導入を支援

産地生産基盤パワーアップ事業

令和7年度補正予算額 8,000百万円

<対策のポイント>

収益力強化に計画的に取り組む産地に対し、農業者等が行う高性能な機械・施設の導入や栽培体系の転換等に対して総合的に支援します。また、輸出事業者等と農業者が協働で行う取組の促進等により海外や加工・業務用等の新市場を安定的に獲得していくための拠点整備、需要の変化に対応する園芸作物等の先導的な取組、全国産地の生産基盤の強化・継承、土づくりの展開等を支援します。

<事業目標>

- 青果物、花き、茶の輸出額の拡大（農林水産物・食品の輸出額：5兆円〔2030年まで〕）
- 品質向上や高付加価値化等による販売額の増加（10%以上〔事業実施年度の翌々年度まで〕）
- 産地における生産資源（ハウス・園地等）の維持・継承 等

<事業の内容>

1. 新市場獲得対策

- ① 新市場対応に向けた拠点事業者の育成及び連携産地の対策強化
新市場のロット・品質に対応できる拠点事業者の育成に向けた貯蔵・加工・物流拠点施設等の整備、拠点事業者と連携する産地が行う生産・出荷体制の整備等を支援します。
- ② 園芸作物等の先導的取組支援
園芸作物等について、需要の変化に対応した優良品目・品種、省力樹形の導入や栽培方法の転換、技術導入の実証等の競争力を強化し産地を先導する取組を支援します。

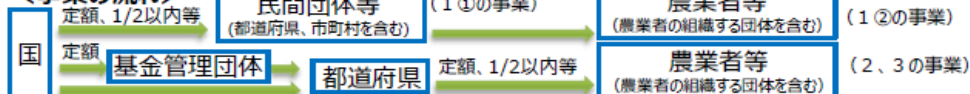
2. 収益性向上対策

収益力強化に計画的に取り組む産地に対し、計画の実現に必要な農業機械の導入、集出荷施設の整備等を総合的に支援します。また、施設園芸産地において、燃油依存の経営から脱却し省エネ化を図るために必要なヒートポンプ等の導入等を支援します。

3. 生産基盤強化対策

- ① 生産基盤の強化・継承
農業用ハウスや果樹園・茶園等の生産基盤を次世代に円滑に引き継ぐための再整備・改修、継承ニーズのマッチング等を支援します。
- ② 全国的な土づくりの展開
全国的な土づくりの展開を図るため、堆肥や緑肥等を実証的に活用する取組を支援します。

<事業の流れ>



※共同利用施設の再編・合理化については、以下の事業で支援

○新基本計画実装・農業構造転換支援事業
老朽化が進む地域農業を支える共同利用施設の再編集約・合理化に取り組む産地に対して支援。

<事業イメージ>

2. 収益性向上対策

【整備事業】

- ・集出荷貯蔵施設、農産物処理加工施設の整備を通じた集出荷機能の改善
- ・高付加価値化による産地の収益力強化に向けた取組 等



集出荷貯蔵施設



乾燥調製施設



農産物処理加工施設



低コスト耐候性ハウス

【基金事業（生産支援事業・効果増進事業）】

- ① コスト削減に向けた高性能な農業機械のリース導入・取得
- ② 雨よけハウス等、高付加価値化に必要な生産資材の導入 等

<省力化機械のリース導入・取得>



ベッドフォーマ



スピードスプレー

<生産資材の導入>



パイプハウス資材



平張資材

<高性能機械のリース導入・取得>



GPS自動操舵システム



食味収量コンバイン

【お問い合わせ先】

- | | | |
|-----------|-------------|----------------|
| (1①、2の事業) | 農産局総務課生産推進室 | (03-3502-5945) |
| (1②の事業) | 果樹・茶グループ | (03-3502-5957) |
| (3①の事業) | 園芸作物課 | (03-6744-2113) |
| (3②の事業) | 農業環境対策課 | (03-3593-6495) |

7 技術対策（令和8年度予算 スマ転事業）

- 品目毎の技術課題解決のため、スマート農業技術の現場導入とその効果を高める取組に対し、機械導入費、資機材費等を支援

スマート農業・農業支援サービス事業導入総合サポート事業のうち

スマ転事業

（スマート技術体系への包括的転換加速化総合対策事業）

令和8年度予算額2,530百万円の内数（前年度 30百万円）

〔令和7年度補正予算額 15,658百万円の内数〕

<対策のポイント>

農業者の高齢化・減少が進む中において、労働生産性の高い農業構造への転換に向けて、スマート農業技術の現場導入とその効果を高める栽培体系への抜本的な転換等の取組を総合的に支援します。

<事業目標>

スマート農業技術の活用割合を50%以上に向上〔令和12年度まで〕

<事業の内容>

1. スマート技術体系転換加速化支援

品目ごとの技術課題※の解決のため、スマート農業技術を活用し、農業機械の導入とその効果を高める栽培体系への転換により労働生産性の向上を一体的かつ合理的に実施する産地の取組に対し、機械導入費、資機材費、ほ場整備費、改植・新植費等を支援します。

※品目ごとの技術課題

水稲：直播栽培や自動化農機の導入 等

麦・大豆：土地生産性・品質の向上 等

畑作物：直播栽培やAI選別等と組み合わせた大型自動化農機の導入 等

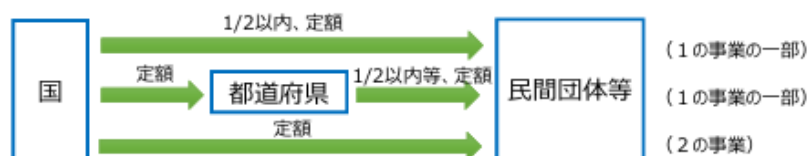
果樹・茶：自動化農機等の導入、機械利用効率を高める省力樹形等の導入 等

野菜：機械化一貫体系の導入、高温障害対策技術の導入 等

2. 全国推進事業

スマート農業技術を活用した栽培体系への抜本的な転換を行う先進的な取組の横展開を図るため、実証展示ほ場の設置やシンポジウムの開催等を支援します。

<事業の流れ>



<事業イメージ>

1. スマート技術体系転換加速化支援

（水稲）



（例）
自動操舵システム
＋直播栽培による
作期分散

（果樹・茶）



（例）
自動追従システム＋
省力樹形・園地整備
による栽培管理の
効率化

（畑作物）



（例）
AI選別＋大型機械
による一斉収穫・選別

（野菜）



（例）
高温障害の影響を
低減する生育予測
システム＋
機械による一斉収穫

2. 全国推進事業



先進的な取組の
横展開

【お問い合わせ先】農産局技術普及課（03-6744-2107）

7 技術対策（令和7年度補正予算 持続的生産強化対策事業のうち加工・業務用野菜の国産シェア奪還）

- 加工・業務用野菜の国産シェア奪還にむけ、高温、渇水等の影響に対応できる生産・流通・販売方式の変革等を支援

持続的生産強化対策事業のうち

加工・業務用野菜の国産シェア奪還

令和8年度予算概算決定額 338百万円（前年度 375百万円）
〔令和7年度補正予算額 200百万円〕

<対策のポイント>

加工・業務用野菜の国産シェア奪還に向け、生産者、中間事業者、実需者等が連携して行う、高温、渇水等の影響に対応できる生産・流通・販売方式の変革、作柄安定技術の導入等、実需者ニーズに対応した国内産地による周年安定供給を確立するための取組等を支援します。

<事業目標>

加工・業務用野菜の国産切替量（32万トン〔令和12年度まで〕）

<事業の内容>

時代を拓く園芸産地づくり支援

① 国産野菜周年安定供給強化事業

加工適性の高い品種や大型コンテナの導入など生産・流通・販売方式の変革、作柄安定技術の導入等を支援します。（助成単価:15万円/10a（定額））

※高温、渇水等による被害や影響の回避・軽減のための取組を優先的に支援。

② 国産野菜供給体制づくり支援事業

生産者、実需者等を繋ぐマッチング等の全国的な取組に係る経費を支援します。

③ スマート施設園芸展開推進事業

施設園芸の生産性を高めるデータ駆動型栽培体系への転換に向けた事例収集、課題・ノウハウの整理、農業者への情報発信や人材育成等の取組を支援します。

〔関連事業〕国産青果物安定供給体制構築事業

〔令和7年度補正予算額 200百万円〕

① 国産野菜周年安定供給強化事業

加工適性の高い品種や大型コンテナの導入など生産・流通・販売方式の変革、作柄安定技術の導入等を支援します。（助成単価:15万円/10a（定額））

※高温、渇水等による被害や影響の回避・軽減のための取組を優先的に支援。

② 青果物流通合理化支援

サプライチェーンの連携強化に向けた生育予測・集出荷システム等の導入、連携、流通業者等の受入体制に合わせた出荷規格の見直し等の実証を支援します。

<事業の流れ>



<事業イメージ>

安定的な生産・出荷に取り組む産地への支援

<生産・流通・販売方式の変革>

- 加工適性や高温耐性の高い品種の導入
- 農業用機械、大型コンテナの導入
- 予冷库の利用等

<作柄安定技術の導入>

- 排水・保水対策
- 病虫害防除対策
- 地温安定対策等

周年安定供給のための体制づくりへの支援

<マッチングイベントの開催>

- イベントに先立つ生産者・実需者のニーズ把握
- イベントと併せたセミナーや意見交換の実施

<マッチング後のフォローアップ>

- 取引手順、契約書類作成等に係る助言・指導

スマート施設園芸展開推進への支援

<事例収集>

- 施設園芸産地におけるデータ駆動型農業の手法・成果の収集、整理
- 大規模園芸施設等の全国実態調査の実施等

<情報発信・人材育成>

- シンポジウム開催等による優良事例等の発信
- データ駆動型農業への転換に取り組む指導者育成研修の実施等

実需者ニーズに対応した国内産地による周年安定供給を確立

〔お問い合わせ先〕農産局園芸作物課（03-3501-4096）

7 技術対策（令和7年度補正予算、令和8年度予算 国産野菜周年安定供給強化事業）

- 加工・業務用野菜の国産シェア奪還にむけ、高温、渇水等の影響に対応できる生産・流通・販売方式の変革等を支援

持続的生産強化対策事業のうち

加工・業務用野菜の国産シェア奪還

令和8年度予算概算決定額 338百万円（前年度 375百万円）
〔令和7年度補正予算額 200百万円〕

<対策のポイント>

加工・業務用野菜の国産シェア奪還に向け、生産者、中間事業者、実需者等が連携して行う、高温、渇水等の影響に対応できる生産・流通・販売方式の変革、作柄安定技術の導入等、実需者ニーズに対応した国内産地による周年安定供給を確立するための取組等を支援します。

<事業目標>

加工・業務用野菜の国産切替量（32万トン〔令和12年度まで〕）

<事業の内容>

時代を拓く園芸産地づくり支援

- 国産野菜周年安定供給強化事業**
加工適性の高い品種や大型コンテナの導入など生産・流通・販売方式の変革、作柄安定技術の導入等を支援します。（助成単価：15万円/10a（定額））
※高温、渇水等による被害や影響の回避・軽減のための取組を優先的に支援。
- 国産野菜供給体制づくり支援事業**
生産者、実需者等を繋ぐマッチング等の全国的な取組に係る経費を支援します。
- スマート施設園芸展開推進事業**
施設園芸の生産性を高めるデータ駆動型栽培体系への転換に向けた事例収集、課題・ノウハウの整理、農業者への情報発信や人材育成等の取組を支援します。

〔関連事業〕国産青果物安定供給体制構築事業

〔令和7年度補正予算額 200百万円〕

- 国産野菜周年安定供給強化事業**
加工適性の高い品種や大型コンテナの導入など生産・流通・販売方式の変革、作柄安定技術の導入等を支援します。（助成単価：15万円/10a（定額））
※高温、渇水等による被害や影響の回避・軽減のための取組を優先的に支援。
- 青果物流通合理化支援**
サプライチェーンの連携強化に向けた生育予測・集出荷システム等の導入、連携、流通業者等の受入体制に合わせた出荷規格の見直し等の実証を支援します。

<事業イメージ>

安定的な生産・出荷に取り組む産地への支援

<生産・流通・販売方式の変革>

- 加工適性や高温耐性の高い品種の導入
- 農業用機械、大型コンテナの導入
- 予冷库の利用等

<作柄安定技術の導入>

- 排水・保水対策
- 病害虫防除対策
- 地温安定対策等

周年安定供給のための体制づくりへの支援

<マッチングイベントの開催>

- イベントに先立つ生産者・実需者のニーズ把握
- イベントと併せたセミナーや意見交換の実施

<マッチング後のフォローアップ>

- 取引手順、契約書類作成等に係る助言・指導

スマート施設園芸展開推進への支援

<事例収集>

- 施設園芸産地におけるデータ駆動型農業の手法・成果の収集、整理
- 大規模園芸施設等の全国実態調査の実施等

<情報発信・人材育成>

- シンポジウム開催等による優良事例等の発信
- データ駆動型農業への転換に取り組む指導者育成研修の実施等

<事業の流れ>



実需者ニーズに対応した国内産地による周年安定供給を確立

〔お問い合わせ先〕農産局園芸作物課（03-3501-4096）

7 技術対策（技術開発予算関係）

- 気候変動に適応する高温耐性等の革新的な特性を持った品種の開発を実施

（４）生産性の抜本的な向上を加速化する革新的新品種開発

令和7年度補正予算額 3,010百万円

<対策のポイント>

生産性の抜本的な向上を加速化する多収性品種等革新的な特性を持った品種、開発した品種の利用拡大に資する栽培技術、省力的な種苗生産技術、育種素材の開発等について、新たに整備する高精度な分析機器も活用しつつ実施します。加えて、スマート育種技術を低コスト化・高精度化し、育種現場で簡便に利用できる育種効率化基盤を構築します。また、水稻の生産性の抜本的な向上に資する技術の開発により、我が国の食料安全保障の確保に貢献します。

<事業目標>

多収化や高温耐性などに資する35品種の育成〔令和12年度まで〕

<事業の内容>

1. 政策ニーズに対応した革新的新品種開発 1,400百万円

- ① 今後の国内農業の基盤となる革新的な新品種開発
- ② 品種の利用拡大に資する新品種の栽培技術、省力的な種苗生産技術の開発
- ③ 切れ目なく品種開発を継続するための育種素材の開発
産官学の連携により推進します。

2. より高精度な新品種開発のための分析機器等の整備 840百万円

より精度の高い特性評価等を行うことにより、ニーズに最適となる品種を確実に開発するため、新品種開発等に必要の分析機器等を整備します。

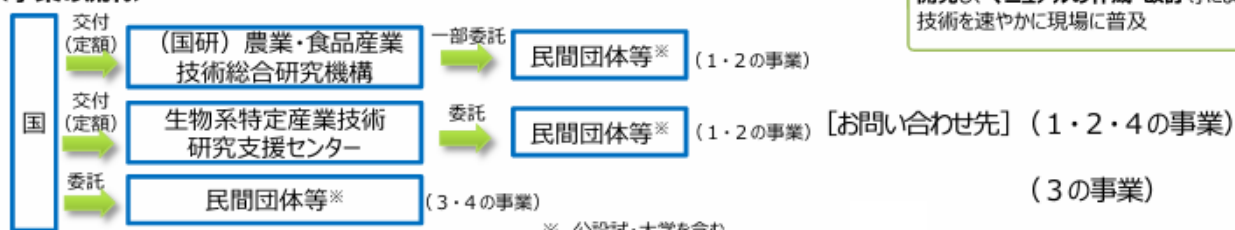
3. 新品種開発を加速化する作物横断的育種効率化基盤の構築 600百万円

ゲノム情報、AI、遺伝資源等をフル活用し、穀物、野菜、果樹などの新品種開発を加速化できる作物横断的な育種効率化基盤の開発を推進します。

4. 食料安全保障強化に向けた水稻の低コスト・多収栽培技術の開発 170百万円

各地域における乾田直播や再生二期作に適した多収品種等を選定するとともに、その能力を最大限に発揮するための極めて低コストな栽培技術を開発します。また、節水型乾田直播の確立に向けた水管理や雑草防除技術等を開発します。

<事業の流れ>



<事業イメージ>

1. 政策ニーズに対応した革新的新品種開発

- ◆革新的な新品種開発
(多収性、機械作業適性、高温耐性品種など)
 - ◆栽培技術・種苗生産技術の開発
 - ◆育種素材の開発
- 生産性向上等により、食料・農業・農村基本計画のKPI達成に寄与
-

2. より高精度な新品種開発のための分析機器等の整備

新品種開発、栽培技術・種苗生産技術の開発、育種素材の開発に必要な分析機器等の整備

3. 新品種開発を加速化する作物横断的育種効率化基盤の構築

- スマート育種技術を低コスト化・高精度化し、多品目に利用できる育種効率化基盤を開発
- ・作物横断的な育種情報データベースの構築
 - ・AI等により最適な交配親の予測や効率的な選抜ができる育種支援ツールの開発
 - ・作物形質の計測を効率化する高速フェノタイピング技術の開発
-

4. 食料安全保障強化に向けた水稻の低コスト・多収栽培技術の開発

水稻の低コスト・多収栽培を可能とする技術を開発し、マニュアルの作成・改訂等により、開発技術を速やかに現場に普及



農林水産技術会議事務局研究統括官
(生産技術) 室 (03-3502-2549)
農林水産技術会議事務局研究開発官
(基礎・基盤、環境) 室 (03-3502-0536)

7 技術対策（技術開発予算関係）

- 今後深刻化が見込まれる気候変動等の政策課題に対応した技術・生産体系の確立に資する研究開発を国主導で推進

（3）戦略的農林水産研究推進事業

令和8年度予算額 912百万円（前年度 1,369百万円）

〔令和7年度補正予算額 420百万円〕

<対策のポイント>

政府戦略や政府方針で掲げる農林水産業に関する目標や目指す姿の実現に向けて必要な技術の研究開発を国主導で推進するとともに、研究成果の社会実装に向け、知財の活用を見据えた研究開発時からの戦略的な知財マネジメントの強化など、研究成果の社会実装に向けた環境整備を実施します。

<事業目標>

- 重要課題に対応する技術を開発し、農林漁業者等がその開発された技術を実践〔令和12年度まで〕
- 知財マネジメントの強化、アウトリーチ活動の展開により、農林水産業・食品産業にイノベーションを創出〔令和12年度まで〕

<事業の内容>

1. 研究開発

847百万円（前年度 1,284百万円）

政府戦略や政府方針で掲げる農林水産業に関する目標や目指す姿の実現に向けて必要な技術の研究開発を国主導で推進します。

① 食料安全保障強化研究

生産性の抜本的向上や農業生産基盤の持続的な保全等に資する技術の研究開発を推進

② 気候変動適応研究

温暖化に対する適応技術や将来の適地適作予測技術の研究開発を推進

③ 輸出拡大研究

輸出先国・地域の規制やニーズに対応するための技術の研究開発を推進

④ 環境負荷低減対策研究

みどりの食料システム戦略の実現に資する技術の研究開発を推進

⑤ 革新的技術創出研究

バイオテクノロジーを活用した革新的な技術の創出に資する研究開発を推進

2. 環境整備

65百万円（前年度 86百万円）

① 戦略的研究開発知財マネジメント強化事業

② 海外・異分野動向調査

③ 先端技術の社会実装の加速化のためのアウトリーチ活動の展開

（令和7年度補正予算）関連事業

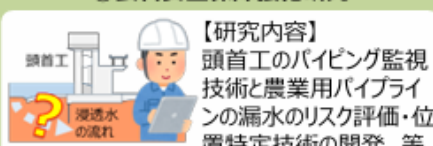
- 食料安全保障強化に向けた水稲の低コスト・多収栽培技術の開発
- 輸出拡大に向けたニーズや付加価値の高い農産物の栽培・加工技術等の開発
- スギ花粉の実用化に向けた安全性・有効性の検証

<事業の流れ>



<事業イメージ>

① 食料安全保障強化研究



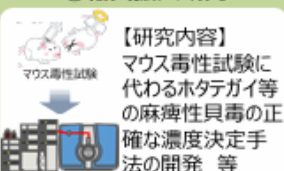
【期待される効果】
予知保全による効率的な農業用水の安定確保を通じ、食料安全保障の強化に貢献

② 気候変動適応研究



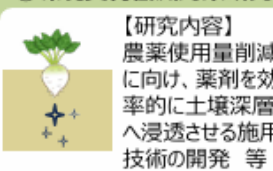
【期待される効果】
気候変動リスク回避と温暖化によるメリット活用による産地維持・新産地育成を通じ、農林水産業の持続性確保に貢献

③ 輸出拡大研究



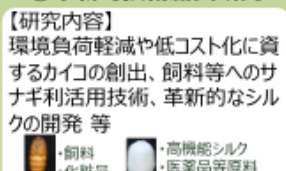
【期待される効果】
EU等へホタテガイの販路を維持・拡大することにより、輸出拡大を実現 等

④ 環境負荷低減対策研究



【期待される効果】
みどり戦略に資する技術の確立を通じ、環境と調和のとれた食料システムの確立に貢献

⑤ 革新的技術創出研究



【期待される効果】
資源を余すことなく活用するエコ養蚕システムの構築、新しい市場の創出 等

① 知財マネジメント強化

研究成果の効果的な社会実装のための知財マネジメントを推進

② 海外・異分野動向調査

海外・異分野の最新の研究開発動向等を俯瞰的に調査

③ アウトリーチ活動の展開

先端技術をわかりやすく伝える動画等のコンテンツを作成

【お問い合わせ先】

農林水産技術会議事務局研究企画課

（03-3501-4609）